

2022（令和4）年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1493000515	事業の開始年月日	令和3年 4月1日
		指定年月日	令和3年 4月1日
法人名	株式会社ハートライフケア		
事業所名	グループホームゆらり大和		
所在地	(242-0021) 神奈川県大和市中央6-12-4		
サービス種別 定員等	■ 認知症対応型共同生活介護	定員計	18名 ユニット数 2 ユニット
自己評価作成日	令和5年10月10日	評価結果 市町村受理日	令和5年5月17日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/>

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

職員の定着率です。介護業界の人材不足が社会問題化していく中で、職員の育成や職員の定着に関しての強みがあります。管理者主体の事業所運営から、社員さんやその他職員さん主体のチームへ移行しています。職員さんたち自身で考える力、協力していく力、達成していく過程、新しい提案などを尊重して見守っています。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鵠沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和4年11月1日	評価機関 評価決定日	令和5年5月8日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は相鉄線・小田急線「大和」駅下車、商店街や警察署などの公共機関のある通りを徒歩15分ほどの所で引地台小学校が隣接する高台にあります。建物はクリーム色の鉄筋2階建てで1階は同法人の小規模多機能型居宅介護事業所が併設されています。周囲は住宅街で消防署、公園や農地があり、平坦でゆったりとした住環境です。遠望として丹沢山系や富士山を眺めることが出来ます。

<優れている点>

医療連携体制にしっかり取り組んでいます。週2日の訪問看護師による健康管理、隔週での訪問診療と24時間のオンコール体制が出来ていて、利用者と家族の安心につながっています。玄関、お風呂、トイレや食堂を兼ねた共有スペースは広々としてテーブルやソファを置いてもゆとりがあり、それぞれの思い思いの空間配置が出来た状態です。また、自治会や地域との交流が出来ています。ハロウィン時の地域の子どものお菓子交換会はコロナ禍でも実施しています。事業所の理念は作成中ですが現在は「笑顔でかかわる事」をモットーに運営を進めています。

<工夫点>

家庭生活に沿って入浴を午前から午後に移し、午前中は体操やレクリエーションを中心に体を動かし、結果としてトイレ利用時の自力排泄に繋がるよう進めています。入浴時にシーツ等の交換を併せて週2回行い、清潔で気持ち良い状態を作っています。行事担当、発注担当、居室担当等の役割で職員の自発性を高めています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	12 ~ 16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	17 ~ 23
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホームゆらり大和
ユニット名	1階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	事業所の理念を職員全員で共有し日々のケアに活かしています	今年7月に着任した管理者のもと、法人の理念「共に認め共に喜ぶ」を具体的な事業所の行動理念につなげていく準備を進めています。現在は「笑顔でかわる」を合言葉に利用者に接するよう、日々の支援時やスタッフ会議で話し合い、理念の共有に努めています。	法人の理念を受けて現在進めている事業所の運営内容を行動理念として職員で話し合い、まとめ共有して利用者、家族にも周知していく事が期待されます。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	コロナで制限があるため、地域を呼び込んでのイベント開催は難しい状況。天気が良い日は近隣を散歩を行い、地域と関わる時間を作っています	コロナ禍が少し治まり地域活動を再開する準備を進めています。併設の施設と共同でハロウィンの飾りつけを道路脇の柵に飾りつけとして行い、地域の子供との交流の場としています。地域行事への参加、ボランティアの受け入れ再開に向けて準備をしています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	事業所から発信して、認知症の人の理解や支援を積極的に行えていない状況。新規入居で相談に来られるご家族様へは、事業所の方針や認知症対応での留意点をお伝えしている。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	コロナにより書面開催中ではあるが、事業所の活動内容を報告しています。	自治会には加入していますが現在はまだ書面会議で実施しています。事業所の課題、行事、避難訓練やヒヤリハット等の報告を自治会会長や他の運営推進会議のメンバーと行政担当部門に送付して連携に努めています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	認定調査、介護保険に関する相談事等、不明点があれば都度、市町村と連携をしています。	生活保護関係の申請等の相談は電話でしていますが直接会っての話し合いや相談の場は現在は出来ていません。定期的に福祉関係の情報や研修案内を受け取っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業員への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束をしないケアに取り組んでいる。	本部で毎月、基礎研修として身体拘束廃止の研修を取り入れています。	3ヶ月に1回、法人主体で開催する身体拘束等廃止委員会に管理者が参加し、その報告をフロアー会議で伝達周知しています。職員に対しては「自己チェックシート」を活用して防止に対する周知を行っています。家族了解のもとで設置のベットセンサーも廃止の方向で話し合いを進めています。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	本部で毎月、基礎研修として身体拘束廃止を含む、虐待防止について学んでいる。また、事業所では虐待防止委員を設置し、防止に努めています。	法人開催とは別に事業所で防止委員会を立ち上げ、日頃の言動や車いす介助時の支え方など安全も考慮のうえ防止に向けて学び合っています。管理者は夜勤明けや日頃の利用者の様子に注意を向け、ロビーや通路には見守りカメラを設置して法人で一括管理をしています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	対応が必要と思われる事例では、行政と関わりながら進めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居前に必ずご家族や利用者さんの困りごとを把握し、入居に際しての不安や心配事を限りなく軽減することに努めています。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族が気軽に意見や要望を表せる機会は明確に定めていないが、来所時、お電話等で気軽にご意見を求められるような関係作りに励んでいます。	家族会議の開催はありませんが半数近くの家族の訪問があり、その折を利用して家族の意見を聞く機会としています。又写真を入れた「家族だより」の送付や電話等により意見を聞いています。施設玄関には写真付きで職員名がわかるよう貼りだしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員個々が抱える意見を全て反映することは叶えられていない。各職員と対話する場面は日々持ちながら個別に抱えている不安や心配事の把握に努めている。	管理者は必要に応じて相談に応じたり個人面談を実施してフォローしています。職員の役割分担等を決め、特技や希望に沿ってそれぞれが意欲的に活躍できるよう進めています。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	代表者が現場に足を運ぶことは少ないが、各部長や管理者と事業所、職員の現状を把握することに努めています。	勤務時間を明確にし、残業などを無くすことに努めています。勤務時間の交代時などで起きやすい連携の課題も連続した支援が出来るよう業務の洗い出しによる整備を進めることで改善を図っています。	勤務交代時等における支援の狭間が生じない様に業務分担や役割分担を文書化して整備をさらに進めていく事が期待されます。
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	毎月本部で行われる基礎研修に、代表者が必ず出席し、職員と共に知識を深めることを行っています。	法人主体の職員育成計画のもとに基礎研修が定期的に行われています。事業所では適宜必要な研修に対して代表者が受講し、その結果を事業所内で共有しています。また現在はリモートによる研修も活用しています。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	現在コロナ状況により、外との直接的な繋がりは減っているが、法人内の他事業所と意見交換等を行う場を全体会議等で取り組んでいる。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前には必ず、ご利用者様と対面し、信頼関係を構築することに努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居前には必ず、ご家族と対面し、信頼関係を構築することに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	必要であれば、歯科往診、訪問マッサージ等の導入も提案しています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	生活を共にする場として、調理、洗濯、掃除を可能な限り利用者様と行っています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	電話や月報を活用し、情報共有に努めています。必要な物品の購入と用意も可能な限りご家族に用意をしてもらっています。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	昔からのご友人に会いに来ていただいたり、家族の方時に参加をすることなどを行っています。	コロナ禍の中で知人友人の訪問は出来ていません。多くの利用者が入居前は近隣の地域住民です。近くの散策が馴染みの場の中心となっています。コロナ禍が落ち着いた後は公園等行く予定です。現在は毎日配達の新開や折り込みチラシから近隣の生活情報を垣間見えています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	フロアでは仲の良い利用者様同士で過ごしてもらい、孤立しがちな利用者様には職員から積極的にコミュニケーションを図っています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	お看取りでお亡くなりになったご家族へ、改めて感謝の想いを伝えるご連絡wおしています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者様本人が望むことを可能な限り実現できることに取り組んでいます。	「笑顔でかかわる」を大切な姿勢として心を聴くよう努めています。聞き取った思いや意向は日誌に記録し共有しています。「歩きたい」との思いを受けて歩行が困難な利用者が短い距離を歩行した事例もあり、安全確認のうえ思いの実現に取り組んでいます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご家族と共に、利用者様の生活背景を共有しています。可能であれば生活の中で実現できることに取り組んでいます。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	職員同士の申し送りや、情報共有を大切にし、一日の状態変化も全職員の目線で共有していくことを大切にしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	毎月のユニット会議で、各利用者様の現状と課題を分析、評価している。電話連絡にてご家族とも日々の支援内容、ご利用者様の状態について情報共有をしています。	入居後の様子をみながら、ユニット会議で確認し、モニタリングを行っています。変化があった時は医師や看護師の意見も参考に、申し送りや毎月のユニット会議で確認しています。本人や家族に説明をして、介護計画の見直しにつなげながら支援をしています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	申し送りと、タイムラインにて記録を実施しています。必要であれば、業務内容の変更や支援内容の変更を行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	可能な限りご家族の要望を叶えることに努めているが、要望が強くなりすぎてトラブルになることもある。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	訪問歯科、医療、等を活用しご本人の心身を整えて、安全穏かな生活を日々送れるように支援しています。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	入居時に往診医の情報をお伝えし、納得をされてからサービスを利用されている。	入居前のかかりつけ医を継続する事も可能ですが、入居者は事業所の協力医を全員選択しています。訪問看護師は週1回、内科医の往診は1階2階、それぞれ隔週の計月4回あり、治療等には精神科・皮膚科の医師とも連携をしています。歯科医の往診もあります。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	週に2回訪問看護を行っている。皮膚状態、熱発等の状況時には訪問看護へ相談、指示をもらい利用者様にとって適切な対応が行えることに努めている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日ごろから病院関係者と連絡を取り関係を構築している。入院時のご家族と、医療機関と情報交換を密に行っています		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	ゆるやかな体力低下、重度化した場合には速やかにご家族と相談し今後の方針を共に共有しています。	重度化や、終末期の説明が必要な時は、医師、管理者、ケアマネジャーが、家族に状態や事業所でできる事を説明して、今後の治療方針を決めます。看取りの対応時は、職員にも都度研修を行います。本人、家族を看護師も含めたチームで支援しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	緊急時に連絡する連絡系統を、会議の中で共有している。フローチャートを用意し、全職員が把握できる環境作りに努めている。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	地域参加の避難訓練が、コロナ状況により行えていない状況。避難訓練自体は年に2回行っています。	コロナ禍で地域や事業所の避難訓練は、互いに参加行できていない状況です。事業所は年2回の避難訓練は行い、夜間を想定した訓練も計画しています。災害備品は現在は在庫リストを作成中で、職員がわかり易い方法で保管、管理する予定です。	直ぐ取り出せるよう消火器の設置場所の確保や、必要機材の確認を全職員で共有する事や、災害時対応の備蓄・備品類は、在庫リストの作成と保管場所の確保を進めることが期待されます。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	名前の呼び方、否定語を使わない、等の配慮を職員で行っています。	入居者は苗字に「さん」付けで呼び、苗字が同じ場合は本人と相談して名前です。入浴や排泄時はドアを閉めて、周囲への配慮をしながら支援しています。何かを選択できる時は、本人に確認して、本人の意思決定を大切にしています	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	入浴の選択をご本人に尋ねています。外出支援を行う際にも無理強いをせず、一人一人の選択を尊重しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	眠気が強い場合は起床介助を遅らせる等の工夫をしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	外出時には、ご利用者様と共に服の選択を行っています。起床時にも、洗面台の前で必ず身だしなみを整えるようにしています。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	食後の洗いを職員と共に行っています。盛り付けや配膳も、可能な限りご利用者様と共に協力しています。	手伝える時は積極的に職員と、洗物、盛り付け、配膳、下膳を一緒に行っています。誕生日には好きな物を食べてもらえるように希望を聞いています。入居者の要望で、おやつ作りや庭でバーベキューを行う事もあります。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事が進まない場合、エンシュアを活用したり、ご家族が用意する飲料ゼリーを活用して、水分量の確保に努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後に各利用者さんの口腔ケアを行っています。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	おむつは使用しない方針を持っています。必要であれば、トイレ誘導をする時間帯を設けて、自然排尿の促しと失禁の頻度を減らすことに努めています。	オムツはなるべく使用しない方針です。一人ひとりの排泄パターンを把握して、時間や、急に立ったり、歩いたりする動作から、トイレ誘導の促しをしています。自然排泄、排尿の中で失禁の頻度をなくすよう心がけて支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	ラジオ対応を毎日行い、運動を日常の中に取り入れています。便秘薬の適切な使用量と頻度を職員と往診医で把握しながら、便秘予防に努めています。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	曜日や時間帯を決めずに、午前&午後を活用しながら柔軟な入浴対応を行っています。入浴拒否がある場合には、無理強いせずに職員を代える対応等を行っています。	週2回午後に、好みの入浴剤を入れ、入浴しています。湯水は毎回入れ替え、湯の温度も本人の希望で設定しています。1対1の入浴時のコミュニケーションを大切にしています。入浴拒否がある人には、声掛けを工夫して入浴できるようにしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	日中の眠気が強い場合は居室での臥床を促しています。眠ることが趣味で楽しみな利用者様には、安心して日中も夜間も眠れるよう身体の体位交換も取り入れています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	利用者様の内服に変化がある場合は、必ず申し送りに共有をして、全職員が薬の内容と目的を把握するように努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	家事が得意な方には、積極的に家事をお手伝いをしていただき、やりがいや役割を感じていただいています。嗜好品はご家族に用意してもらい、生活の中で楽しみを感じてもらっています。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	コロナ状況により遠出や外出ができていない状況。施設周辺の散策を職員と共に行っています。	コロナ禍により、家族との外出や買い物は自粛しています。天気の良い日は、施設周辺の散歩や外気浴、隣接する小学校の桜の花を鑑賞しています。入居者の要望により、車で近くの公園に散策に行く事もあります。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お金はご家族管理となっており、ご本人様が持っていません。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご本人自ら、ご家族に手紙を書いてもらっています。返信が来た場合にもご本人にお渡しをし、ご家族との関係性維持に取り組んでいます。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	テレビの音量も適宜調節しています。日差しが強すぎる日は、カーテンをして、快適に過ごせるよう環境作りに取り組んでいます。	広がりビングは明るさや温度、湿度を管理して快適に過ごせる室内環境作りに気を配っています。毎月のカレンダーや季節ごとの飾りは、入居者と一緒に作成して飾っています。掃除は毎日行い清潔を保っています。大きい窓は、陽ざしが良く差し込み明るいリビングとなっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	テーブルと椅子を複数用意し、好きな場所で過ごせるよう環境配置をしています。仲が良い利用者様同士は隣同士のお席にして、楽しみながら生活が送れる工夫をしています。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居時に、馴染みの物をお持ちいただくことを提案しています。	居室の入口には、漢字やひらがな表記の名札を設置しています。家族の写真や手紙を掲示したり、趣味の油絵を描いて、飾っている人もいます。居室は毎日職員が掃除を行い、一緒に手伝う人もいます。シーツ類の交換は入浴時を利用して週2回実施し清潔を保っています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	通路はすれ違いができるようテーブルや椅子で圧迫をしないように工夫しています。トイレの場所を誘導するPOPや、夜間帯に廊下の電気をつけて歩きやすくするなどの取り組みをしています。		

事業所名	グループホームゆらり大和
ユニット名	2階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/>	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/>	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	事業所の理念を職員全員で共有し日々のケアに活かしています		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	コロナで制限があるため、地域を呼び込んでのイベント開催は難しい状況。天気が良い日は近隣を散歩を行い、地域と関わる時間を作っています		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	事業所から発信して、認知症の人の理解や支援を積極的に行っていない状況。新規入居で相談に来られるご家族様へは、事業所の方針や認知症対応での留意点をお伝えしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	コロナにより書面開催中ではあるが、事業所の活動内容を報告しています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	認定調査、介護保険に関する相談事等、不明点があれば都度、市町村と連携をしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業員への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	本部で毎月、基礎研修として身体拘束廃止の研修を取り入れています。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	本部で毎月、基礎研修として身体拘束廃止を含む、虐待防止について学んでいる。また、事業所では虐待防止委員会を設置し、防止に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	対応が必要と思われる事例では、行政と関わりながら進めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居前に必ずご家族や利用者さんの困りごとを把握し、入居に際しての不安や心配事を限りなく軽減することに努めています。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族が気軽に意見や要望を表せる機会は明確に定めていないが、来所時、お電話等で気軽にご意見を求められるような関係作りに励んでいます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員個々が抱える意見を全て反映することは叶えられていない。各職員と対話する場面は日々持ちながら個別に抱えている不安や心配事の把握に努めている。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	代表者が現場に足を運ぶことは少ないが、各部長や管理者と事業所、職員の現状を把握することに努めています。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	毎月本部で行われる基礎研修に、代表者が必ず出席し、職員と共に知識を深めることを行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	現在コロナ状況により、外との直接的な繋がりは減っているが、法人内の他事業所と意見交換等を行う場面を全体会議等で取り組んでいる。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前には必ず、ご利用者様と対面し、信頼関係を構築することに努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居前には必ず、ご家族と対面し、信頼関係を構築することに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	必要であれば、歯科往診、訪問マッサージ等の導入も提案しています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	生活を共にする場として、調理、洗濯、掃除を可能な限り利用者様と行っています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	電話や月報を活用し、情報共有に努めています。必要な物品の購入と用意も可能な限りご家族に用意をしてもらっています。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている。	昔からのご友人に会いに来ていただいたり、家族の方時に参加をすることなどを行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	フロアでは仲の良い利用者様同士で過ごしてもらい、孤立しがちな利用者様には職員から積極的にコミュニケーションを図っています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	お看取りでお亡くなりになったご家族へ、改めて感謝の想いを伝えるご連絡wおしています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者様本人が望むことを可能な限り実現できることに取り組んでいます。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご家族と共に、利用者様の生活背景を共有しています。可能であれば生活の中で実現できることに取り組んでいます。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	職員同士の申し送りや、情報共有を大切にし、一日の状態変化も全職員の目線で共有していくことを大切にしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	毎月のユニット会議で、各利用者様の現状と課題を分析、評価している。電話連絡にてご家族とも日々の支援内容、ご利用者様の状態について情報共有をしています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	申し送りと、タイムラインにて記録を実施しています。必要であれば、業務内容の変更や支援内容の変更を行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	可能な限りご家族の要望を叶えることに努めているが、要望が強くなりすぎてトラブルになることもある。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	訪問歯科、医療、等を活用しご本人の心身を整えて、安全穏かな生活を日々送れるように支援しています。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	入居時に往診医の情報をお伝えし、納得をされてからサービスを利用されている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	週に2回訪問看護を行っている。皮膚状態、熱発等の状況時には訪問看護へ相談、指示をもらい利用者様にとって適切な対応が行えることに努めている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日ごろから病院関係者と連絡を取り関係を構築している。入院時のご家族と、医療機関と情報交換を密に行っています		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	ゆるやかな体力低下、重度化した場合には速やかにご家族と相談し今後の方針を共に共有しています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急時に連絡する連絡系統を、会議の中で共有している。フローチャートを用意し、全職員が把握できる環境作りに努めている。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	地域参加の避難訓練が、コロナ状況により行えていない状況。避難訓練自体は年に2回行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	名前の呼び方、否定語を使わない、等の配慮を職員で行っています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	入浴の選択をご本人に尋ねています。 外出支援を行う際にも無理強いをせず、一人一人の選択を尊重しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	眠気が強い場合は起床介助を遅らせる等の工夫をしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	外出時には、ご利用者様と共に服の選択を行っています。起床時にも、洗面台の前で必ず身だしなみを整えるようにしています。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	食後の洗い物を職員と共に行っています。盛り付けや配膳も、可能な限りご利用者様と共に協力している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事が進まない場合、エンシュアを活用したり、ご家族が用意する飲料ゼリーを活用して、水分量の確保に努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後に各利用者さんの口腔ケアを行っています。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	おむつは使用しない方針を持っています。必要であれば、トイレ誘導をする時間帯を設けて、自然排尿の促しと失禁の頻度を減らすことに努めています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	ラジオ対応を毎日行い、運動を日常の中に取り入れています。便秘薬の適切な使用量と頻度を職員と往診医で把握しながら、便秘予防に努めています。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	曜日や時間帯を決めずに、午前&午後を活用しながら柔軟な入浴対応を行っています。入浴拒否がある場合には、無理強いせずに職員を代える対応等を行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	日中の眠気が強い場合は居室での臥床を促しています。眠ることが趣味で楽しみな利用者様には、安心して日中も夜間も眠れるよう身体の体位交換も取り入れています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	利用者様の内服に変化がある場合は、必ず申し送りに共有をして、全職員が薬の内容と目的を把握するように努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	家事が得意な方には、積極的に家事をお手伝いをしていただき、やりがいや役割を感じていただいています。嗜好品はご家族に用意してもらい、生活の中で楽しみを感じてもらっています。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	コロナ状況により遠出や外出ができない状況。施設周辺の散策を職員と共に行っています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お金はご家族管理となっており、ご本人様が持っていません。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご本人自ら、ご家族に手紙を書いてもらっています。返信が来た場合にもご本人にお渡しをし、ご家族との関係性維持に取り組んでいます。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	テレビの音量も適宜調節しています。日差しが強すぎる日は、カーテンをして、快適に過ごせるよう環境作りに取り組んでいます。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	テーブルと椅子を複数用意し、好きな場所で過ごせるよう環境配置をしています。仲が良い利用者様同士は隣同士のお席にして、楽しみながら生活が送れる工夫をしています。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居時に、馴染みの物をお持ちいただくことを提案しています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	通路はすれ違いができるようテーブルや椅子で圧迫をしないように工夫しています。トイレの場所を誘導するPOPや、夜間帯に廊下の電気をつけて歩きやすくするなどの取り組みをしています。		

2022年度

事業所名 ゆらり大和
作成日： R5 年 5 月 12 日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1		法人の理念は掲示されているが、事業所の理念の掲示がない。	理念に沿った行動・実践に努める。	事業所内への掲示・周知する。	3ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月